



危険生物「マダニ」にご注意ください!

夏から秋にかけて、森林でのアウトドア活動が楽しい季節です。

でも、森林にはハチやマムシ、毒キノコなど危険生物がたくさん生息しています。

今回は、近年ニュースで報道されることも増えてきた「マダニ」の被害対策についてご紹介します。

生息場所：主に森林や草地に生息し、市街地周辺でも見られます。比較的大型(吸血前で3~4mm)のマダニです。



タカサゴキララマダニ 出典：厚生労働省ウェブサイト

症状：SFTS(重症熱性血小板減少症候群)ウイルスを保有したマダニに咬まれると、発熱やおう吐などを引き起こすSFTSウイルスに感染し、死に至ることもあります。

対策：長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが大事です。また、屋外活動後はマダニに刺されていないか確認して下さい。

マダニに咬まれたら：吸血中のマダニに気が付いたら、できるだけ病院(皮膚科)で処置してもらってください。マダニに咬まれた後に発熱等の症状が出た場合は、すぐに病院で受診して下さい。

(北村)

地域材を活用!

淡海里の家事業協同組合

木のジャングルジム「くむんだー」

私たちの組合は、地域の材料を使い、職人たちの手仕事を大切に思い、家づくりをしています。学習会をはじめ、イベントへの参加、商品の開発などに幅広く取り組んでいます。そんな中、子どもたちと触れ合う機会を増やし、木の良さ、温もりを知ってもらいたいと思うようになりました。

そこで、少し前までは、公園や幼稚園などに当たり前にあったのに、いつの間にか姿を消したジャングルジムの復活できないだろうか、と思いを立ちました。それも、「地域の間伐材で!」「伝統的な家づくりの工法を活用して!」そんな思いが詰まって出来上がったのが、木のジャングルジム「くむんだー」です。

柱の穴に、横の材(貫)を組み込み、隙間にくさびを、木づちでコンコンと打って組み立て

ていく子供参加型ゲームです。高さも、広さも敷地の形にもどのようにも対応できる、「のびるジャングルジム」です。

現在、各地のイベント、企業、施設等から貸出しの問い合わせが増え、レンタルもさせて頂いています。一度体験してみませんか。

淡海里の家事業協同組合 笠原啓史



子供たちの積極性や創造力が養われますヨ

みんな活動やっつます

~奥永源寺~芸術の風を感じよう~

永源寺ダムの上流、奥永源寺地域には芸術の息吹が溢れていることをご存知でしょうか。



ここが発祥の地である木地師はもちろん、木工作家、画家、写真家など、奥永源寺の自然の素晴らしさ、生活の魅力に引き寄せられた方々が活動しています。

また政所茶や石釜パンなどの味覚も充実! この4月には「おいしいモノとモノづくり」を巡る「山歩道(さんぽみち)」が開催され、大盛況だったようです。



さらに10月末の一週間は「匠の祭り」として、蛭谷町の木地師資料館周

←「山歩道」でろくろ体験

辺にて、奥永源寺の芸術が一堂に集う展示・実演会が開催されます。

匠の作家、作品との出会いが待っています。



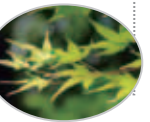
主催者である木地師の北野さん曰く、「奥永源寺の魅力を知ってもらい、ここでの暮らし方の一つの提案を」「芸術から地域を盛り上げ、地域に若返ってほしい」とのこと。

奥永源寺の魅力が一箇所にギュッと凝縮され、一度に味わえるまたとない機会です。この機会に奥永源寺の芸術の風を感じてみてはいかがでしょうか。

(梅原)

「匠の祭り」問い合わせ先：山歩道実行委員会 090-6558-7548(北野)

※開催日時要確認



この人に注目!!

地域緑化に貢献! 樹木医の川崎さん、農林水産大臣賞受賞!

平成26年6月1日新潟県で開催されました全国植樹祭で、樹木医の川崎昭重さん(彦根市在住、78歳)が緑化功労者として農林水産大臣賞を受賞されました。

川崎さんは、樹木医として永年、平田川沿いのサクラ並木の造成や芹川のケヤキ並木の保存、彦根城のマツやサクラの保護管理など地元彦根市を中心に湖東地域など幅広い範囲で緑づくりの推進や指導に貢献されてきました。



農林水産大臣賞受賞



第65回全国植樹祭に出席

とりわけ、オーナー制を導入して造成された平田川沿いのサクラ並木は、兩岸400mにわたり120本ものサクラが生育し、今では大阪造幣局のサクラの通り抜けの彦根版として、彦根市民だけでなく近隣市町からも多くの人々が訪れ有名になっています。

緑化指導に熱が入る



平田川沿いのサクラ並木

川崎さんには、今後ますますの緑化活動の推進と後継者の育成指導などさらなる御活躍が期待されます。

(中川宏)



梅雨も明け、山がにぎわいを見せる季節になりました。今号で扱ったマダニなどの危険生物への対策は入念にしたいものです。その上で、四季のある日本が一番暑い季節に見せる、山の心地よさや美しさを満喫できればと思っています。(中川宏)



私たちの山はどこにあるの??

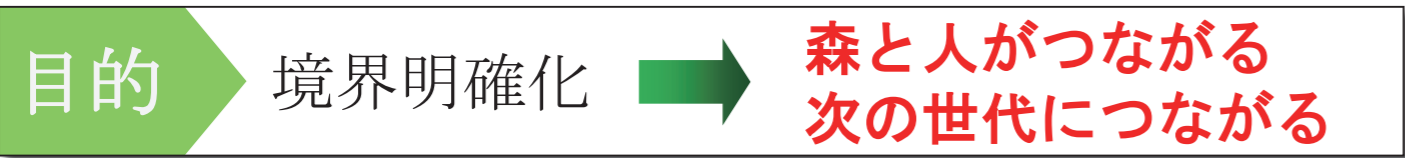


■ ~なぜ、今、境界明確化が必要なのか~

私たちはこれまで地域の森林と関わり、そのかたちは変化しても、その共生の関係は脈々と受け継がれてきました。

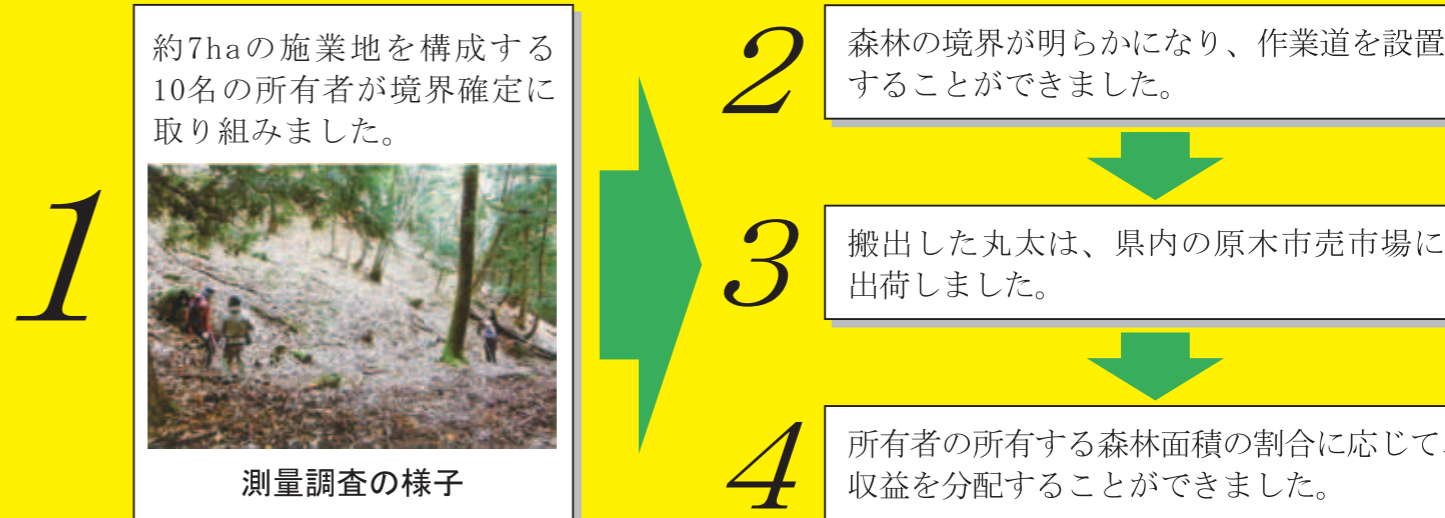
しかし、昨今、所有する森林の境界をはっきりと知らない山主の方が多くことが問題となっています。「山の境界どころか、先祖代々受け継いできた山がどのあたりにあるのかさえ知らない」という山主の方も多いのではないでしょうか。

森林・林業に目を向けていく上で、「森と人の長期的な視野での関わり」という視点は欠かせません。これまで、とても長い時間、私たちや先祖は水や空気を提供する森林の恩恵を受けてきましたし、先人は木材や薪を採取するために森林を育ててきました。境界明確化は、これからも、このような森と人との関係を維持していくために必要なことであると私たちは考えます。



<事例>鳥居本地域での搬出間伐の実践から

彦根市鳥居本地域にある中山町では、平成24年度に作業道を設置し、搬出間伐に取り組みました。



~中山町での境界明確化の成功要因~

さて、中山町で境界明確化が達成されたポイントは何だったのでしょうか。今回、平成24年度の搬出間伐の実施で中心的な役割を果たした、地域住民のKさんにインタビューを行いました。その結果、境界明確化が成功した要因が見えてきました。

1) 熱意のあるコーディネーターの存在

Kさんが山主のみなさんの合意形成のため奔走されました。作業は民間事業体に委託しましたが、Kさんはその窓口として経理などの事務にも尽力されました。

2) 林業の関心のある山主の存在

中山町では、以前から切捨て間伐や枝打ちなどの保育作業に取り組んできた林業に関心の高い山主の方がおられました。しかも、その方は地域の住民からも信頼の厚い方です。さらに、その山主の方は比較的規模の大きな森林を所有しておられます。

まずは、個人で動くことから始めよう!!

森林の手入れを行うためには、所有する森林の場所や境界が分かることが重要です。そのために役立つ基本的なツールをご紹介します。

森林組合が頼りになります!

個人が所有する森林の多くは、森林組合などの林業事業体が管理しています。そこで、一度、森林組合を訪ねていただき、所有林を森林組合の職員と一緒に歩いてみてはいかがでしょうか。杭を用いて境界を示した後に行う「測量」の方法についても、役立つアドバイスをもらえることでしょう。

森林計画図と森林簿

森林計画図は、5000分の1の地形図に大字・字界、林・小班などが記載されているものです。森林簿は、各林・小班について、山林の所有者や面積、樹種、林齢などを記録している台帳です。どちらも、森林所有者であれば、県の出先事務所で閲覧ができます。

※ 林・小班とは、森林の位置把握と施業のため、字界・稜線等を境界として、各市町ごとに設定した森林区間の単位です。



推進体制を整えましょう!!

境界の明確化は、一人ではできません。周辺の森林所有者のみなさんの中から、境界の明確化に挑戦する有志を集め、5名から10名程度での推進体制を整えましょう。

さあ、具体的に取り組んでみましょう!!

今回の特集でご紹介したように、境界確定は、難しいことではなく、今から始めても決して遅くはありません。境界明確化は、今回取り上げた事例から明らかなように、地域で協力して取り組む活動です。活動を進めるツールとして、森林計画図、森林簿をご活用ください。少しでも関心を持たれた時は、ぜひ、森林組合など林業事業体にご相談していただくことをお勧めします。

境界明確化

地域の森林を守り、育てる

- 複数の所有者の森林を通る作業道の設置
- 搬出間伐や主伐の収益の分配